

百首经典和歌赏析

BAISHOU JINGDIAN HEGE SHANGXI

——《小仓百人一首》新解

武德庆 编著



武汉理工大学出版社
Wuhan University of Technology Press

百首经典和歌赏析

——《小仓百人一首》新解

武德庆 编著

武汉理工大学出版社

· 武 汉 ·

图书在版编目 (CIP) 数据

百首经典和歌赏析/武德庆编著. — 武汉: 武汉理工大学出版社, 2008.8

ISBN 978-7-5629-2775-4

I. 百… II. 武… III. 和歌-文学欣赏-日本-古代 IV. I313.072

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2008) 第 120193 号

作者简介

武德庆, 1952 年生。1978 年毕业于上海外国语大学日语专业。长期从事日本文学、文化教学与研究。现任武汉理工大学日语系副教授, 湖北省政府发展研究中心特邀研究员。在武汉大学出版社出版《日本文学教程 (日文版) 》(参编)、《日本古典文学作品选读 (日文版) 》(主编)、《日本国情概观 (日文版) 》(主编) 等教材, 并发表相关学术论文多篇。

出版者: 武汉理工大学出版社

<http://www.techbook.com.cn> 理工图书网

(武汉市武昌珞狮路 122 号 邮编 430070)

印刷者: 安陆市鼎鑫印务有限责任公司

经销者: 各地新华书店

开 本: 787 × 960 1/16

印 张: 14.75

字 数: 302 千字

版 次: 2008 年 8 月第 1 版

印 次: 2008 年 8 月第 1 次印刷

印 数: 1—1000 册

定 价: 32.00 元

(本书如有印装质量问题, 请向出版社发行部调换。)

前言

古典和歌堪称日本文化的“宝库”。通过古歌可了解到日本地理、历史、古代风俗、社会环境、政治制度等多方面的知识；有些古歌还潜含着曲折动人的故事，通过这些和歌能深入体察日本古人的内心世界。经典和歌一直是日本语言的规范。日本近代歌人佐佐木信纲说：“不稳妥的用词、破格的语法、没有章法的修辞都为和歌稽古所讳。”为此，学习和歌能全方位地提高日语水平。

歌自心出。古歌精炼地表达了古人的内心情感，而这些情感在日新月异的现代社会并没有过时，在自然观、恋爱观、价值观、审美情趣、文化理念等方面仍对现今的日本人起着潜移默化的影响。藤原定家的“以古歌为师，用古风熏陶我心”这句名言，在日本不但没有远去，随着国际化的进程，反而有日益强化的趋势。2003年，日本国语协议会会长宇野精一先生在《平成新选百人一首》的前言里，强调了这样一个主体思想：“传统文化是形成人格的重要基础，所谓的传统文化就是包含语言、文字、文学、历史在内的古典。”

亚洲儒家文化圈内的中日两国，都特别重视古典文化，特别看重受古典文化熏陶所养成的儒雅、睿智的气质，这个气质，在现代社会和国际交往中，越来越起着其他方面无法替代的作用，而学习和歌则是接受古典最便捷的途径。

对待古典，有一个有趣的现象：亲者日益近，疏者日渐远。随着光阴流逝，喜欢者越发精通；疏远者则会更加陌生，甚至陌生得对古典的东西连看都不不想去看。究其原因，与当初对待古典的态度不无关系。因此说，好的启蒙，对学习古典至关重要。

和歌作为“雅文化”的代表，既是日本文学的一个制高点，同时也是学习日本古典的最佳的启蒙读物。和歌既“难”又“易”。看似矛盾，实际上是对立的统一。如从整体上看和歌当然很难，如果能将“和歌的整体之难”，有条理地分而化之，形成具体的容易明了的问题点，那么，就会大大地降低对古典和歌的“敬远感”，进而增加“亲和力”。本书的编写思路，都归纳在基础部分里。此主旨，简而概之，即是“以词汇为切入点，理清句子结构，看懂和歌含义，挖掘思想潜意”，通过化“难”为“易”，达到走进古典和歌世界的目的。为此，在“注释”部分里，对每首和歌，除显而易见的内容外，都逐字逐句地进行了解说，并着重解释了「用言」「助動詞」的活用情况，以明白其变化的来龙去脉。“作者”部分，作为背景材料，着重叙述作品与作者、作者与当时时代的关系。“赏析”部分是每首和歌的核心，其内容包括：①对“和歌”进行直译，以弄清歌意。②分析句子结构，理清句子成分。③阐述该歌的历史背景、人文环境、趣闻轶事、修辞特色等，以期达到对所述和歌有一个整体的感觉。④日本是“汉学”在海外最大的分支，日本古代通过对“汉学”特别是

对“汉诗”的吸收与变貌，形成了独特的表现形式，以“汉诗”为参照系，容易看清和歌的文学特色。为此和歌与汉诗的比较也占了一定的比例。“汉译”部分的译文仅供读者参考，因为对和歌的感受及汉语表达，因人而异会有很大不同。或许这正是和歌汉译的魅力所在。

本书适合作大学日本语言文学专业高年级及硕士研究生的日本文学课的教学用书。这次在《和歌小仓百人一首讲义》的基础上重编此书，除在“赏析”部分里注入新的内容和观点外，最大的改变是在求实的基础上，将古典和歌化难为易，力求通俗有趣，以适应更多的读者。至于效果如何，等待着读者朋友们的评判。

为了对和歌有一个较为系统的概念，书后的“基础部分”介绍了和歌的起源与发展，并探讨了和歌“意韵美”的问题，以期引起对和歌的研究兴趣。在“附录部分”，归纳了一些相关资料，可供查阅。本书虽然做了以上工作，整体说来仍感粗糙，至于一些和歌的细腻内涵，还靠读者慢慢去体味。

值此书出版之际，谨向给与本书很多建议的武汉大学出版社的王春阁主任、武汉大学日语系的吴鲁鄂教授、日本友人饭岛范躬先生致以真诚的谢意。本书由武汉理工大学教材出版资金资助出版，在此感谢学校、教务处、教材中心、外国语学院、日语系、出版社有关领导及办公人员的大力支持。感谢教材出版基金评委，感谢担任本书责编的孙成林老师，他以精深的专业水平、严谨的工作态度，提出了许多有价值的意见。还要感谢承担本书的校对、排版、装帧等工作，为本书出版付出智慧和辛劳的有关人员。

本书在编写过程中，虽如履薄冰般地小心求证，但不当甚至谬误之处在所难免，敬请同行和读者朋友们指正。

武德庆

2008年03月20日

目 录

赏析部分

- 1 秋の田の かりほの庵の 苦をあらみ わが衣手は 露にぬれつつ……………(3)
- 2 春すぎて 夏来にけらし 白妙の 衣ほすてふ 天の香具山……………(4)
- 3 あしびきの 山鳥の尾の しだり尾の ながながし夜を ひとりかも寝む……………(7)
- 4 田子の浦に うちいでて見れば 白妙の 富士の高嶺に 雪はふりつつ……………(9)
- 5 奥山に もみぢふみわけ なく鹿の 声聞くとときぞ 秋はかなしき ……………(11)
- 6 かささぎの 渡せる橋に おく霜の 白きを見れば 夜ぞふけにける ……………(13)
- 7 天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に いでし月かも ……………(15)
- 8 わが庵は 都のたつみ しかぞすむ 世をうち山と 人はいふなり ……………(17)
- 9 花の色は うつりにけりな いだづらに わが身よにふる ながめせしみに ……………(19)
- 10 これやこの 行くも帰るも わかれては 知るも知らぬも あふ坂の関 ……………(21)
- 11 わたの原 八十島かけて こぎいでぬと 人には告げよ あまのつり舟 ……………(23)
- 12 天つ風 雲のかよひ路 吹きとちよ をとめの姿 しばしとどめむ……………(25)
- 13 つくばねの 峰よりおつる みなのか ころもつもりて 淵となりぬる ……………(27)
- 14 みちのくの しのぶもぢずり 誰ゆゑに 乱れそめにし われならなくに……………(29)
- 15 君がため 春の野にいでて 若菜つむ わが衣手に 雪はふりつつ……………(31)
- 16 立ちわかれ いなばの山の 峰に生ふる まつとし聞かば いま帰り来む……………(33)
- 17 ちはやぶる 神代もきかず 竜田川 からくれなゐに 水くくるとは……………(35)
- 18 すみの江の 岸による波 よるさへや 夢のかよひ路 人めよくらむ……………(36)
- 19 難波渦 みじかき芦の ふしのまも あはでこの世を すぐしてよとや ……………(38)
- 20 わびぬれば いまはたおなじ 難波なる みをつくしても あはむとぞ思ふ……………(41)
- 21 いまこむと いひしばかりに 長月の ありあけの月を 待ちいでつるかな……………(42)
- 22 吹くからに 秋の草木の しをるれば むべ山風を 嵐といふらむ……………(45)
- 23 月みれば ちぢに物こそ かなしけれ わが身ひとつの 秋にはあらねど……………(47)
- 24 このたびは ぬさもとりあへず 手向山 もみぢのにしき 神のまにまに……………(49)
- 25 名にしおはば 逢坂山の さねかづら 人にしられで 来るよしもがな ……………(50)
- 26 小倉山 峰のもみぢば 心あらば いまひとたびの みゆき待たなむ……………(52)
- 27 みかの原 わきて流るる いづみ川 いつみきとてか 恋しかるらむ……………(54)
- 28 山里は 冬ぞさびしさ まさりける 人めも草も かれぬと思へば……………(56)

- 29 心あてに 折らばや折らむ 初霜の おきまどはせる 白菊の花……………(58)
- 30 ありあけの つれなく見えし 別れより あかつきばかり うきものはなし……………(60)
- 31 朝ぼらけ ありあけの月と 見るまでに 吉野の里に ふれる白雪……………(62)
- 32 山川に 風のかけたる しがらみは ながれもあへぬ もみぢなりけり ……………(63)
- 33 ひさかたの 光のどけき 春の目に しづ心なく 花のちるらむ……………(65)
- 34 誰をかも しる人にせむ 高砂の 松も昔の 友ならなくに……………(67)
- 35 人はいさ 心もしらず ふるさとは 花ぞ昔の 香ににほひける……………(68)
- 36 夏の夜は まだ宵ながら あけぬるを 雲のいづこに 月やどるらむ……………(71)
- 37 白露に 風の吹きしく 秋の野は つらぬきとめぬ 玉ぞ散りける……………(72)
- 38 忘らるる 身をば思はず ちかひてし 人のいのちの 惜しくもあるかな……………(74)
- 39 浅茅生の 小野の篠原 しのぶれど あまりてなどか 人の恋しき……………(76)
- 40 しのぶれど 色にいでにけり わが恋は 物や思ふと 人のとふまで……………(78)
- 41 恋すてふ わが名はまだき 立ちにけり 人しれずこそ 思ひそめしか ……………(80)
- 42 ちぎりきな かたみに袖を しぼりつつ 末の松山 波こさじとは……………(81)
- 43 あひみての のちの心に くらぶれば 昔は物を 思はざりけり……………(83)
- 44 あふことの たえてしなくは なかなかに 人をも身をも 恨みざらまし……………(85)
- 45 あはれとも いふべき人は 思ほえて 身のいたづらに なりぬべきかな……………(87)
- 46 由良のとを わたる舟人 かちをたえ ゆくへも知らぬ 恋の道かな……………(88)
- 47 八重むぐら しげれる宿の さびしきに 人こそ見えね 秋は来にけり ……………(90)
- 48 風をいたみ 岩うつ波の おのれのみ くだけて物を 思ふころかな……………(92)
- 49 みかきもり 衛士のたく火の 夜はもえ 昼は消えつつ 物をこそ思へ……………(94)
- 50 君がため 惜しからざりし いのちさへ 長くもがなと 思ひけるかな……………(95)
- 51 かくとだに えやはいぶきの さしも草 さしもしらじな もゆる思ひを……………(97)
- 52 あけぬれば 暮るるものとは しりながら なほうらめしき 朝ぼらけかな……………(99)
- 53 なげきつつ ひとりぬる夜の あくるまは いかにかしき ものとかはしる ……………(101)
- 54 忘れじの ゆくすゑまでは かたければ 今日をかぎりの いのちとがな ……………(103)
- 55 滝の音は たえて久しく なりぬれど 名こそ流れて なほ聞こえけれ ……………(105)
- 56 あらざらむ この世のほかの 思ひ出に いまひとたびの あふこともがな ……………(107)
- 57 めぐりあひて 見しやそれとも わかぬ間に 雲がくれにし 夜半の月かな ……………(109)
- 58 有馬山 猪名の笹原 風吹けば いでそよ人を 忘れやはする ……………(111)
- 59 やすらはで 寝なましものを さ夜ふけて かたぶくまでの 月をみしかな ……………(113)
- 60 大江山 いく野の道の 遠ければ まだふみも見ず 天の橋立 ……………(115)
- 61 いにしへの 奈良の都の 八重桜 けふ九重に にほひぬるかな……………(117)
- 62 夜をこめて 鳥のそらねは はかるとも よに逢坂の 関はゆるさじ ……………(119)
- 63 いまはただ 思ひ絶えなむ とばかりを 人づてならで 言ふよしもがな……………(122)

- 64 朝ぼらけ 宇治の川霧 たえだえに あらはれわたる 瀬ぜの網代木 …………… (123)
- 65 うらみわび ほさぬ袖だに あるものを 恋にくちなむ 名こそをしけれ…………… (125)
- 66 もろともに あはれと思へ 山桜 花よりほかに しる人もなし …………… (127)
- 67 春の夜の ゆめばかりなる 手枕に かひなくたたむ 名こそをしけれ…………… (130)
- 68 心にも あらでうき世に ながらへば 恋しかるべき 夜半の月かな…………… (132)
- 69 あらしふく み室の山の もみじばは 竜田の川の 錦なりけり …………… (133)
- 70 さびしさに 宿をたちいでて ながむれば いづこもおなじ 秋の夕ぐれ …………… (135)
- 71 夕されば 門田の稲葉 おとづれて 芦のまろやに 秋風ぞ吹く …………… (137)
- 72 音にきく たかしの浜の あだ波は かけじや袖の めれもこそすれ …………… (139)
- 73 高砂の をのへの桜 咲きにけり 外山のかすみ たたずもあらなむ …………… (141)
- 74 憂かりける 人を初瀬の 山おろしよ はげしかれとは 祈らぬものを …………… (143)
- 75 ちぎりおきし させもが露を いのちにて あはれ今年の 秋もいぬめり …………… (145)
- 76 わたの原 こぎいでてみれば 久方の 雲あにまがふ 沖つ白波 …………… (147)
- 77 瀬をはやみ 岩にせかるる 滝川の われても末に あはむとぞ思ふ …………… (149)
- 78 淡路島 かよふ千鳥の なく声に 幾夜ねざめぬ 須磨の関守 …………… (151)
- 79 秋風に たなびく雲の たえ間より もれいづる月の かげのさやけさ …………… (154)
- 80 長からむ 心もしらず 黒髪の みだれてけさは 物をこそ思へ …………… (156)
- 81 ほととぎす 鳴きつるかたを ながむれば ただありあけの 月ぞ残れる …………… (158)
- 82 思ひわび さてもいのちは あるものを 憂きにあたへぬは 涙なりけり …………… (160)
- 83 世の中よ 道こそなけれ 思ひ入る 山の奥にも 鹿ぞ鳴くなる …………… (162)
- 84 ながらへば またこのごろや しのばれむ 憂しと見し世ぞ 今は恋しき …………… (164)
- 85 夜もすがら 物思ふころは 明けやらで 閨のひまさへ つれなかりけり …………… (166)
- 86 なげけとて 月やは物を 思はする かこち顔なる わが涙かな …………… (167)
- 87 村雨の 露もまだひぬ まきの葉に 霧たちのぼる 秋の夕ぐれ …………… (169)
- 88 難波江の 芦のかりねの ひとよゆゑ みをつくしてや 恋ひわたるべき …………… (171)
- 89 玉の緒よ たえなばたえね ながらへば 忍ぶことの 弱りもぞする …………… (174)
- 90 見せばやな 雄島のあまの 袖だにも めれにぞぬれし 色はかはらず …………… (176)
- 91 きりぎりす 鳴くや霜夜の さむしちに 衣かたしき ひとりかも寝む …………… (178)
- 92 わが袖は 潮干にみえぬ 沖の石の 人こそしらね かわくまもなし …………… (180)
- 93 世の中は つねこもがもな なぎさこぐ あまの小舟の つなでかなしも …………… (181)
- 94 み吉野の 山の秋風 さ夜ふけて ふるさと寒く 衣うつなり …………… (183)
- 95 おほけなく うき世の民に おほふかな わが立つ袖に 墨染の袖 …………… (185)
- 96 花さそふ 嵐の庭の 雪ならで ふりゆくものは わが身なりけり …………… (187)
- 97 こぬ人を まつほの浦の 夕なぎに 焼くやもしほの 身もこがれつつ …………… (189)
- 98 風そよぐ ならの小川の 夕暮れは みそぎぞ夏の しるしなりける …………… (191)

99	人もをし 人もうらめし あぢきなく 世を思ふゆゑに 物思ふ身は	(193)
100	もしきや ふるき軒ばの しのおにも なほあまりある 昔なりけり	(195)

基础部分

一、鸟瞰和歌的起源与发展	(199)
1.和歌的起源	(199)
2.《万葉集》时代	(199)
3.《古今集》时代	(199)
4.《新古今集》时代	(200)
二、《小倉百人一首》的编撰过程	(201)
1.和歌经典《百人一首》	(201)
2.横看侧看《百人一首》	(202)
3.情感源泉《百人一首》	(203)
三、《百人首》的竞技方法	(204)
1.和歌纸牌的竞技	(204)
2.常用的比赛方法	(204)
四、体味《百人首》的意韵美	(205)
1.从美意识看《百人首》意韵美	(205)
2.《百人首》与《花间集》的恋情比较	(208)
3.从情感看《百人首》的意韵美	(209)
4.从语法看《百人首》的意韵美	(210)
五、皇室与藤原家族的历史渊源	(211)
1.日本皇室的历史	(211)
2.皇室与藤原家族	(211)
六、如何吟味日本古典和歌	(212)
1.歌诵百遍其意自现	(212)
2.打开古歌的硬外壳	(213)
3.视作者为已邻己友	(214)
4.体味意韵重在分析	(214)
5.形为意设，形神兼备	(215)

附 录

一、和歌的表现技法.....	(216)
二、重要词汇、语句索引.....	(220)
三、主要的参考文献及引用图片.....	(223)

赏 析 部 分

1 秋^{あき}の田^たの かりほ^{いほ}の庵^{とま}の 苫^{とま}をあらみ

わが衣^{ころも}手^では 露^{つゆ}にぬれつつ

【注釋】

1. 秋^{あき}の^の田^たの^の: 「秋」(名詞) 第三季, 从阴历的七月到九月。稻作的收获期。
「の」(格助詞) 连体修飾。「田」(名詞) 田地, 特指水稻田。在《万葉集》中已有咏稻田的歌。「の」(格助詞) 连体修飾。
2. かりほ^{いほ}の^の庵^{とま}の^の: 「かりほ」(名詞) 有两个意思①「刈り穂」割下的稻穗。
②「仮庵」放置杂物的小屋, 在此指用草木搭建的简陋小屋, 供临时放置农作物, 以防止鸟兽侵害。「刈り穂」与「仮庵」是「掛詞」, 即同音双关语。「の」(格助詞) 连体修飾。「庵」(名詞) 与「家」^{いえ}同一词根。「かりほの庵」读起来, 有声音循环美。
3. 苫^{とま}を^をあらみ^み: 「苫」(名詞) 用芭茅等材料苫顶的简陋的小屋。「苫」能让人产生清冷、孤寂的联想。「を」(間投助詞)。「あらみ」(形容詞「粗し」语幹+み)。「体言を+形容词的词干+み」是古语句型, 用来表示原因。「苫をあらみ」因屋顶稀疏的缘故。
4. わ^わが^が衣^{ころも}手^では^は: 「わ」(人称代名詞)「わたし」之意。「が」(格助詞) 连体修飾, 相当于格助詞「の」。「衣」(名詞) 在上代泛指衣服。「衣手」(名詞) 和歌的雅语, 泛指衣袖。
5. 露^{つゆ}に^にぬれ^{ぬれ}つつ^{つつ}: 「露」(名詞) 露水、露珠, 还可联想到眼泪。「に」(格助詞) 表示对象。「ぬれ」(下二段動詞「濡る」連用形) 润湿。つつ(接續助詞) 表示往复、持续。「動詞連用形+つつ」给人一种缓慢滲入之感。

【作者】

天智天皇^{てんじてんのう} (626~671) 日本第 38 代天皇。《万葉集》时代的歌人。他与贵族中臣镰足在朝廷诛杀了把持朝政的蘇我入鹿, 领导了“大化改新”的政治改革。迁都近江, 制定了“近江令”, 被尊为平安时代的天皇之祖。

【赏析】

歌意：“深秋季节，辛苦劳作的农家，将收获的稻谷贮存在野外田边的小屋，并守看其间。夜来浓重的秋露，透过稀疏的茅草屋顶，打湿农家单薄的衣衫。”

从句子结构来看，「わが衣手は」是主题部，「露にぬれつつ」是对主题部进行说明的谓语部。「秋の田のかりほの庵の苫をあらみ」则是对谓语部起修饰作用的原因状语句。

据说在日本吟咏这首歌，能让人想起“飞鸟时代”那美丽的田园风光，展现出「原瑞穂の国」的远古情趣。如果仅从和歌表面的信息来看，我国的读者似乎很难产生这样的联想。不过，此歌所表达的孤独、清冷、静寂的秋夜的情景，还是能让人想象得到的。透过此歌，还可能体会到日本先民生活的艰辛和不易。细想一下，此歌很有“秋天漠漠向昏黑”，“长夜沾湿何由彻”的意境。

【汉译】

野外秋田边，守谷茅庵间，
夜来孤且冷，浓露湿衣衫。

はる なつき しろたへ
2 春すぎて 夏来にけらし 白妙の
ころも あま かぐやま
衣 ほすてふ 天の香具山

【注释】

1. 春—すぎ—て：「春」（名詞）从立春到立夏，阴历一月至三月之间。「すぎ」（上二段動詞「過ぐ」連用形）时间的流逝。「て」（接續助詞）表示动作先后。
2. 夏—来—に—けらし：「夏」（名詞）立夏至立秋的前日，阴历四月到六月，和朝鲜语 nierym 同源。「来」（カ変動詞「来」連用形）。「に」（完了助動詞「ぬ」連用形）。「け（る）」（過去助動詞「けり」連体形）。「らし」（推量助動詞「らし」終止形）。「けらし」是「ける」的「る」脱落后+「らし」的简练表达。「にけらし」是固定的古语表达句式。「夏来にけらし」「夏が来てしまったらしい」之意，是以既定客观存在的「白妙の 衣ほすてふ天の香具山」为推断依据。



大和三山⁽¹⁾

- 3.白妙一の：「白妙」（名詞）原指用「楮木」樹皮の繊維所織成の純白の布。在此取其“洁白”之意，并做「衣」的“枕词”。「の」（格助詞）连体修飾。
- 4.衣一ほす一てふ：「衣」（名詞）衣物。「ほす」（四段動詞「乾す」終止形）。「てふ」「と言ふ」的约音，即「という」，是古语的常用句式。在当时有这样的传说：“在香具山住着‘甘樞明神⁽²⁾’，明神看见身穿湿衣的人，即可判定出此人所说之言是否真实。”人们畏惧神灵，将湿衣马上晒干。
- 5.天の香具山：「天の香具山」（地名）香具山与畝傍山、耳成山共称“大和三山”。香具山位于奈良县橿原市藤宮的东南部，传说此山由天上飞来。上古时代为「アメの」其后改为「アマの」都是显示其久远的由来。

【作者】

じとうてんのう

持統天皇（645～702）天智天皇的第二皇女，天武天皇的皇后，天武驾崩

¹天智天皇の長歌「香具山は畝火(うねび)ををしと耳梨と相争ひき……」をはじめ、「万葉集」には大和三山をよんだ歌が多くおさめられている。写真中央が畝傍山(199m)、その前方左手が天香久山(152m)。写真にうつっていないが左手に耳成山(140m)があり、この三山にかこまれた地に、持統、文武、元明天皇3代の宮都、藤原京がおかれた(694～710)。写真前方は、それ以前の宮都がおかれた飛鳥地方。第1期、第2期の万葉歌の多くが、このあたりを舞台につくられた。

²甘樞明神：神を尊んでいう語。特に靈驗あらたかな神をいうこともある。

后的第4年（690年）即位。制定了“大宝律令”，恢复了中断30多年的遣唐使，是日本历史上有作为的天皇之一。《万叶集》时代的歌人。

【赏析】

歌意：“春日脚步渐已远，凉爽夏季已来临，静看飞来香具山，古往今来未曾变，点点白影飘忽在新绿之间，据说，那是晾晒的衣衫。”

从歌意来看，是典型的具有远古风格的“五七调”。从第2句断句，可分成前2后3两部分。《万叶集》中的原歌为：「春すぎて夏来たるらし白妙の衣ほしたり 天の香具山」¹。定家在编撰时，对此歌做了两点改动，①将「来たるらし」改为「来にけらし」。②将「衣ほしたり」改为「衣ほすてふ」。原歌的「来たるらし」为「来」（カ変動詞「来」連用形）＋「たる」（完了助動詞「たり」連用形）＋らし（推量助動詞）的句式，与「衣ほしたり」相呼应，具有写实、直观的效果。体现了万叶时代「まこと」的风格。改动后的「来にけらし」、「衣ほすてふ」明显地给人以“婉转幽雅、圆润流畅”的感觉，使歌意充满了历史的纵深感，特别是「てふ」，极大地拓展了表达的空间，给人一种“山形依旧”、“烟笼空啼”的感慨。

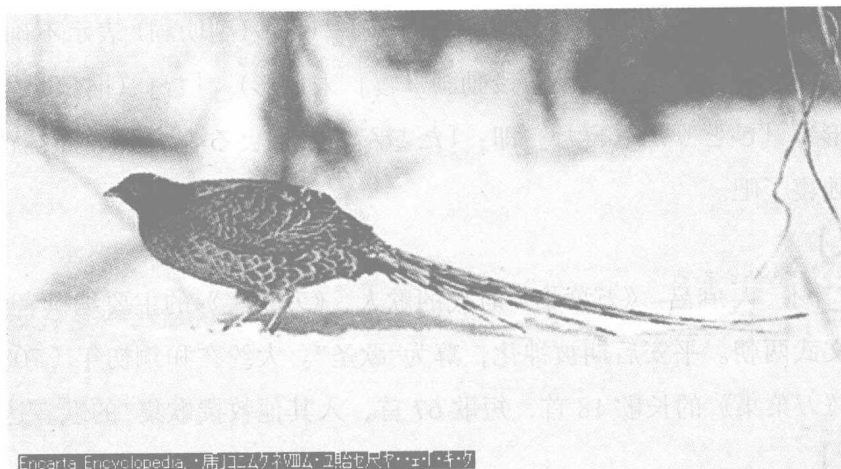
【汉译】

春光渐已远，夏染香具山，
何物亮新绿？白衣现其间。

¹ 伊藤博『万叶集』（卷一）角川ソフィア文庫 1999年 P58页

3 あしびきの ^{やまどり}山鳥^をの尾^をの しだり尾^をの

ながながし夜^よを ひとりかも寝^ねむ



日本の山鳥^①

【注释】

1. あしびきのの：「あしびき」（名詞）奈良时代为「あしひきの」与相关的清音的词汇连接，之后浊音化为「あしびき」。「あしびき」是「山鳥」的「山」的枕词。「の」（格助詞）连体修饰。
2. 山鳥一の一尾一の：「山鳥」（名詞）雉科鸟类，日本野生的雄雉其尾很长，据说此鸟入夜，有雌雄隔谷而眠的习性。此处与「ひとりかも寝む」相呼应，加深了孤独的表现。「の」（格助詞）连体修饰。「尾」（名詞）。「の」（格助詞）连体修饰。
3. しだり尾一の：「しだり尾」（名詞）长长垂下的尾巴。「の」（格助詞）「ように」之意，像长长垂下的尾巴一样。
4. ながながしー夜ーを：「ながながし」（シク活用形容词「ながながし」终止形）。从语法规则来说，修饰体言「夜」的「ながながし」，应为：「ながながしき」，

① オスは全長が120cmほどだが、体はカラスほどで、残りの40～90cmは尾である。力強い翼動でとぶこともあるが、本来地上生の鳥で、丈夫な足を交互にうごかしてゆっくり歩くが、すばやく走ることもできる。